

## 筋には味がある

堀井 謙一

およそ芸術作品といわれるものは、他人に推奨して、「だから読んでみな」「だから聴いてみな」「だから観てみな」「だから食べてみな」「だから嗅いでみな」というものである。だから、読んでみなくとも分かる、もしくは読んでみなくとも他人に伝えられる側面は、知識であつて芸術そのものではない、という人が多い。

味あわないでも、筋は分かる。味あわないでも分かるから、筋は現代では評判が悪い。この場合の「筋」は別名「ストーリー」とも言い、ストーリーテイラーとかストーリー中心主義というのは、現代では、けなし言葉である。申し訳ないが大衆小説の代名詞にも使われもする。「このように筋を紹介しても意味ないことだが」という文芸評論家の常套句もある。ならば紹介しなければよいのだが、せざるをえないところをみれば、そして筋を聞かされてみれば読んだような気分にもなるから、「筋」とは相当に大事な、

上等なものと思つた方がよい。映画でもテレビドラマでも芝居でも小説でも、同じ筋をもたせることができる。現実の事件にだつて筋があるようにも見える。だから、ありふれた大した物ではないともいえるし、普遍性のある大事な物ともいえる。

こういえば、芸術は表現で、筋は表現される内容だ、内容は芸術の本質ではないと、かつての「内容的価値論争」でのやり取りのような反論を受ける。ならば妥協して、芸術は表現デアル説を受け入れてもいい。その上で、筋もまた表現デアル説を唱えたらどうだろう。借りて無くした指輪の代わりに高価な指輪を無理して買って、そつと返しておいたら借りた指輪が最初からまがい物であつたという筋が何も表現していいなどということはない。芥川などこの筋作りに精魂を傾けたものである。

なによりも、言葉の言い回しや筋が表現だとは、二葉亭四迷が『小説総論』ではやくも言つている。曰く、

言葉の言廻し、脚色の模様によりて、此偶然の形の中に明白に自然の意を写し出さんこと、これ模写小説の目的とする所なり

模写であろうとなんであろうと、言葉の言廻しのみならず、脚色の模様という筋によって内容をどう表現するか、これは古来モノガタリ作者の悩んできたところなのだ。要するにさまざまに言葉によって表現される筋そのものが、すでにして何かを表現している。だから筋をも味わうことができる。あの言い回しよりこの言い回しがいいというのと同じように、あの筋よりもこの筋がいいということが出来る。筋は固いものではあるが嚼めば嚼むほど味がある。

(ほりい けんいち 元信州大学教育学部教授)

堀井 謙一先生 略歴

御略歴

昭和三五年三月 静岡県立静岡高校卒業  
 昭和三九年三月 東京教育大学文学部文学科（国語学国文学専攻）卒業  
 昭和四一年三月 東京教育大学大学院文学研究科修士課程（国語学国文学専攻）  
 修了

昭和四一年四月 東京学芸大学付属高校教諭

昭和四七年九月 琉球大学講師（教育学部）

昭和五十年四月 信州大学講師（教育学部）

昭和五二年四月 信州大学助教授（教育学部）

昭和五九年二月 昭和六十年一月 中華人民共和国武漢大学招聘研究員

平成六年四月 信州大学教授（教育学部）

平成一一年四月 信州大学共通教育センターカリキュラム企画・編成実施部門長

平成一六年四月 一八年三月 高等教育高等教育システムセンターセンター長

大学評議員

学会関係

日本近代文学会会員

日本文学協会会員

日本社会文学会会員

昭和文学会会員

国文学言語と文芸の会会員

主要御著書・論文目録

「『火山灰地』と『日本資本主義分析』」『言語と文芸』昭和四二年五月

「村山知義小論」『日本近代文学』昭和四七年五月

「作品把握の論理十二」『信州大学教育学部紀要』昭和五二年六月

「思想小説としての『上海』」『日本文学』平成三年一月

「鬼女紅葉伝説考」オフィスEME、平成九年二月

「接続詞の指導における留意点について」堀井謙一・松崎史周・河崎直茂・児

平美和『信州大学教育学部紀要』九六号、平成九年